

# 共同利用冷凍・冷蔵施設整備の方向性と漁港区域内の適地について

令和4年5月11日

水産振興課

## 1. 境港の冷凍・冷蔵施設

### (1) 背景

- ・境漁港において高度衛生管理型の市場整備が進む中、背後地における衛生管理の行き届いた冷凍・冷蔵施設整備等、漁港としての一貫した衛生管理対策による流通機能の強化が求められている。また、人口減少により水産物の市場規模が縮小傾向にある中、境漁港が持続的に発展していくためには、世界市場に目を向け輸出促進を図るしかなく、そのためには、冷凍・冷蔵施設整備が必須の課題となっている。
- ・フロン切り替えや老朽化により境港での冷凍・冷蔵施設の減少が見込まれる中、仲買事業者からは共同利用できる冷凍・冷蔵施設の整備についての要望が数年前から出されていたが、県としては、県直営で施設を整備するのではなく、漁協・仲買等の事業者を支援するとの立場。

### (2) 現状

- ・境港水産事務所は、冷凍・冷蔵施設を所有する大手16社に対し、当該施設の更新の実態について聞き取りを行った。

聞き取り時期…令和4年2月末～3月上旬、聞き取りした業者数…16社

- ・その結果、半数の企業で自然冷媒の切替が完了していたが、境港の水揚げの先行きが不透明なため、設備投資に踏み切れない業者も多いことも分かった。

自然冷媒の切り替えが完了（代替フロン対応済含む）…8社、冷蔵能力27,000トン

今後の対応を検討中…4社、冷蔵能力20,000トン

今後の整備未定…7社、冷蔵能力22,300トン

### <境港の冷凍・冷蔵施設の現状>

- ・旋網の水揚げが60万トン/年（令和3年9万3千トン）あった平成の初期までに整備されたもの

区 分	施設数	冷凍能力(トン) (−30～32℃で急速冷凍)	冷蔵能力(トン) (−20～30℃で急速冷凍したものを保管※)
全体	16	1,180トン	69,300トン
うちフロン対応済み	8	340トン	27,000トン
〃 今後の対応を検討中	4	355トン	20,000トン
〃 今後の整備未定	7	485トン	22,300トン

(※) 冷凍・冷蔵施設の一部をフロン対応した企業もあり、施設数の内訳と合計は一致しない

## 2. みさき会館等の今後の利用見込

### (1) 経緯等

- ・2号上屋完成後、現在みさき会館に入居している境港水産事務所、境港水産物市場管理棟は2号上屋へ移動する（会議室機能についても2号上屋へ）。
- ・県は、事務所移転後のみさき会館及びその周辺の有効活用については、市場関係者の意見を踏まえながら、共同利用施設の整備を考えてきたところ。
- ・なお、みさき会館及び市場関係者詰所の入居者には、共同利用施設を建設する場合には、退去をお願いする旨説明済（トラック運転手シャワー休憩施設→利用者少数）。
- ・鮮魚仲買共同仕立場があった場所は、工事期間中の仮設トラック待機場として整備したところであるが、工事終了後も引き続きその機能を残し、一体的に必要な共同利用施設の整備を行う方向。

